

入賞

食育が変われば福島も変わる

福島県立ふたば未来学園中学校1年

いしだ せいしろう
石田 征士郎

2011年3月11日に大きな地震と原発事故が福島を襲った。しかし、僕はその出来事を経験していない。なぜなら、ちょうどその1週間後に生まれたからだ。僕はここ福島で育ち、福島で学び、震災についても学んだ。だが、震災で起きた出来事を学ぶことは重要と思いつつも、実際に経験していないと感情的なつながりを持つことは難しく、正直実感がわいてこなかったというのが実情だ。

そんな福島で起こった事実を目の当たりにしたのが、2020年に開かれた東京オリンピック。ある国の選手団が選手村の食事では使われている福島県産などの食材を食べないよう、自国の選手団に指導していたというニュースだ。

「震災からの復興を世界の人々に見てもらうためのオリンピックでもあるのに、どうして福島の食材を食べないのだ。」

そんな思いが駆け巡った。そこで、なぜ福島の食材が嫌われてしまうのか、どうすれば食べてもらえるのか、解決方法を探求してみた。

原発事故により放射性物質が周辺に拡散され、僕達が学ぶ双葉郡にも降り注いだ。そのため福島県全体で作られた農作物などは、放射性物質に汚染され食べると健康被害があると思われた。いわゆる風評被害だ。以降、風評被害払しょくのため、福島で生産された農作物は放射性物質の基準を満たすため検査設備を整え、しかも福島県産米については

全量全袋検査を実施し安全性を確認していることがわかった。また、欧州自由貿易連合に対し福島県産を含む日本食品の安全性をアピールし、輸入規制の撤廃を求め献身的な活動も行っている。

福島の食に関することを調べていると、食育という言葉がよく出てくる。僕は食べることが好きで、特に給食が大好きだ。小学校の時は嫌なことがあって学校に行きたくなくても、給食があるから休まず6年間小学校に通った。そのくらい食には影響力があると思う。中学校になってからも毎日の給食が楽しみで、我が校独自の「ふたばを知る献立」や「地場産物活用週間」が待ち遠しい。このように地元の農産物を食べることにより食育につながることも分かった。

そこで僕は、福島の食の安全を安心へつなげるため、食育のひとつに「食の教育力」を加えたい。食のことを深く知りたい、食のことを深く考えたい全国、全世界から学生を募り、福島で育った食物について一緒に調べ、学び、教え、伝えるという食の修学旅行。

題して「FUKUSHIMAFOOD TOURISM(ふくしまフードツーリズム)」。

福島はどのように食に対する安全環境に取り組んでいるか勉強してもらい、そして福島で育った食物を食べてもらう。これを福島に住むそして育った僕達同年代の学生が案内する。教えることで自分の探求も深まり、教育が福島の未来へつなげる第一歩になると思う。福島は食で変わることができるこれからも発信していきたい。